

1月号



ゆめ
希望溢れる未来のために
～煌めくあきたの灯火となる～

AKITA

JCNEWS



2020年度 AKITA JCNEWS



はじめに

平成という時代が終わりを告げ、令和という新しい時代が始まりました。多くの人たちは新しい時代に希望と期待を抱いています。また、私たちの住み暮らす日本国では5年ぶりの東京オリンピック、パラリンピックの開催など明るいニュースもあります。しかし、その一方で日本各地では多くの問題を抱えています。私たちの秋田においても明るいニュースばかりだけでなく、多くの問題を抱えており、行政や諸団体、民間企業でも連携を行って対応していますが未だに解決に向けた糸口が見えてきていません。その多くの問題は地域経済や地域コミュニティの点から見ても深刻であり、あきたの未来に対して明るい夢を描くことが非常に困難であると思えます。

これまでも秋田青年会議所は地域の問題に常に向き合い、あきたの明るい豊かな社会実現に向けた取り組みを続けてきました。その心は先輩たちから私たち現役メンバーにも引き継がれています。自分たちが住み暮らす地域だからこそ、地域をより良いものにしていきたいという想いを常に抱いています。だからこそ、地域をけん引する青年として、我々一人ひとりが勇気と決意をもって新たな一歩を踏み出そうではありませんか。

郷土愛溢れる次世代の育成

昨年に児童虐待の防止を目的として児童虐待防止法と児童福祉法が改正され、2020年4月から法施行されます。これによってこれまで以上に親や周りの大人の子供に対しての接し方が注目されるようになっていきます。今後も地域にとっての財産である子供たちを健全に育てていくためには、大人と子供との関わり方や信頼関係の構築に向けて、考えて行動していく必要があります。

そこで、あきたの大人たちが地域の良さを再認識し、子供たちに対して伝えていくことが重要です。そして、子供たちの成長段階から地域の良さを伝えることで、子供たちの郷土愛を醸成し、今後のあきたを担う郷土愛溢れる次世代の育成につなげて参ります。

自然環境の次世代への継承

昨今、全国的には急激な自然環境の変化により多くの問題が発生してきていますが、我々が住み暮らすあきたでは恵まれた自然が身近にあり、その恩恵を享受しています。

今後も豊かな自然と共存し生活していくためには、一人ひとりが自然環境に対しての責任を担っていることを再確認し、持続可能な環境運動を行っていくことが重要です。そのために市民とともに時代に即した持続可能な環境運動を考え、その運動を推進していくことで恵まれた自然環境を次世代に継承していくことを目指します。

あきたの魅力の発信

近年、大人たちが地域の未来に対してネガティブな発言をすることによって秋田に誇りを持ってない人達が増えたように感じます。それによって秋田の人たちの地域に対する地域愛が薄れてきています。だからこそ、市民が住み暮らす地域への興味・愛着を深めることが必要です。

そのためには、地域の社会問題に関わっていく自発的団体の行動が求められており、秋田青年会議所としても市民社会資本の発展に向けた取り組みを市民とともに進めます。

また、多くの方々にあきたの魅力を発信することで地域愛の醸成につなげて参ります。

会員の拡大・資質の向上

秋田青年会議所は明るい豊かな社会を築くために67年間、活動・運動を積み重ねてきました。近年、全国の青年会議所の数や会員数は減少傾向にありそれは秋田青年会議所にとっても同じ現状にあります。秋田青年会議所は地域をけん引する多くの偉大な先輩を輩出しています。これからも先輩方が積み重ねてきた想いを基に活動・運動を展開していかなければいけません。

そのためにはあきたを想い、あきたをより良くしていきたいと考える会員の拡大が必要です。また、同時に秋田青年会議所に所属する会員が様々な機会を通じて学び、経験することによってJAYCEEとしての資質の向上につなげて参ります。

結びに

今、時代が急激に移り変わる中で新しい文化が生まれ、多くのモノ、コトが変化しています。しかし、私たちを取り巻く環境が変わっていったとしても、人と人との触れ合いの中で生まれる、思いやりや優しさ、相手を慮る気持ちは変わることはありません。私自身、家族や地域の方々から育てられ、多くの人と関わりを持つことで成長してきました。秋田青年会議所の多くの先輩、現役メンバーにも同じように育てていただいたと感じています。ここで得たつながりや機会は私だけではなく、メンバー一人ひとりの財産になっていると思います。

秋田青年会議所は、多くの先輩方から脈々と受け継がれてきた地域にとっての希望の灯です。その灯を我々一人ひとりが絶やすことなく未来へ引き継ぎ、明るい豊かな社会の実現に向けてさらに今一歩、踏み出していきましょう。共に感謝と敬愛の心、誇りを持ち、今後のあきたの未来を創造すべく、青年としての気概と勇気をもって歩みを進めて参ります。

◆初詣

専務理事／田口 裕也

新年1月3日（金）秋田市川尻の総社神社にて三浦理事長を始めとする理事会構成メンバーで初詣に行ってきました。

「希望（ゆめ）溢れる未来のために～煌めくあきたの灯火となる～」をスローガンに掲げ、2020年度の活動・運動の成功と安全、そして公益社団法人秋田青年会議所と地域の益々の発展を祈願していただきました。明るい豊かな社会実現に向けてメンバー一丸となり活動・運動を展開して参ります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



◆2020年度1月臨時総会を終えて

総務広報委員会 委員／倉田 拓一

1月14日（火）秋田ビューホテルにおいて2020年度1月臨時総会が開催されました。本総会では2020年度予算について満場一致で承認をいただきました。

また、2019年度JC内外褒賞授与式も行われました。JC外褒賞は、秋田醸しまつり実行委員会実行委員長としてあきたらしさ発信事業にご尽力いただきました田沼智史様、秋田JC竿燈会に練習・本番と関わっていただき、東北青年フォーラムにもご協力いただいた国際教養大学竿燈会様に授与させていただきました。そして、JC内褒賞には2019年度100%出席賞として総勢11名が受賞となりました。そして2019年度理事長林徳彦君には三浦理事長より感謝状が授与されました。

2020年度三浦理事長率いる秋田青年会議所が新たにスタートした1日となりました。本年度も明るい豊かなあきた実現に向けて邁進してまいります。何卒よろしくお願ひ致します。



◆新春を祝う会を終えて

事務局 次長／塚田 秀樹

1月14日(火)、秋田ビューホテルにて2020年度新春を祝う会が行われました。会の開催にあたり、2020年度上期新入会員へのバッジ授与が三浦理事長より行われ、現役会員一同盛大な拍手とともに新しい仲間となる4名を迎え入れました。

新春を祝う会では、2020年度体制の始まりということもあり、メンバー全員で親睦を深め、新入会員も含め、これからの1年をより素晴らしいものとなるように多くを語り合うことができました。

例年行っている決意表明では、2020年度のJCI活動・運動が期待できるものだと改めて感じるものとなりました。委員会同士はもちろんメンバー全員で、本年度のJCI活動・運動をより良いものにしていこうと気持ちを一つにできた素晴らしい1日となりました。

新春を祝う会開催にあたり、皆様のご協力に感謝し、より良い1年にしていきたいと思えます。本年度も宜しく願い申し上げます。



◆2020年度京都会議を終えて 郷土愛溢れる次世代育成委員会 委員／吉川 脩



1月16日(木)～19日(日)の日程で2020年度京都会議が開催され、三浦理事長はじめ多くのメンバーで参加してまいりました。本年は「アップデート」をテーマに、昨年より日本JCIが推進してきたSDGsをさらに進化していくための各種ファンクションが行われました。

新年式典では、第69代会頭石田全史君の所信演説で、SDGsの今まで以上の推進、我々青年だからこそできる活動・運動の重要性、国際的な視野の必要性などの話があり、今一度我々に何ができるのか、何をしていくべきかを考える機会をいただきました。

また地区ナイトでは、秋田ブロック協議会林会長から「結いの精神のもと、一丸となって運動を展開したい」という力強い決意を感じました。

私にとって5年ぶりの京都会議、渉外担当としては初めてでしたが、改めて思うことは諸会議に参加すると必ず何かを得られるということ。まだ参加したことがないLOMメンバーは、今後積極的に参加してほしいと思えます。

最後に、至らぬ点が多々あったかと思えますが、参加されたみなさまのご協力のもと無事全行程を終了することができましたことに心より感謝申し上げます。